

RCDefaultApp

RCDefaultApp は、各種の URL スキーム・ファイル拡張子・ファイルタイプ・MIME タイプ・UTI (Uniform Type Identifiers、Mac OS X 10.4 以降専用) 用のデフォルトアプリケーションをユーザ自身が設定できるようにするシステム環境設定項目 (Mac OS X 10.2 以降用) です。Mac OS X では、拡張子やファイルタイプを用いてファイルを開くアプリケーションを選択します。また Safari などのアプリケーションは、ファイルに関連づけられていないコンテンツ (未知の URL プロトコルやメディアアストリームなど) の判別に、URL の種別や MIME タイプの情報を用います。

Finder の“情報を見る”パネルは、ファイル拡張子やファイルタイプに対するデフォルトアプリケーションを設定するのに利用できますが、直観的ではありません。Mac OS X 10.0 から 10.2 (Jaguar) までは、Apple のインターネット環境設定で Web ブラウザやメールソフトを設定することができましたが、他の URL ハンドラは設定できませんでした。Mac OS X 10.3 (Panther) ではそれらの設定が Safari と Mail の環境設定に移動してしまいました -- つまり、これらのアプリケーションを使っていなくても、設定を変更するにはこれらを起動しなければならなくなりました。またこれと同様に、デジタルカメラの設定はイメージキャプチャの環境設定にあり、Web カメラの設定は iChat 環境設定内のチェックボックスとなっています。RCDefaultApp ではこれらすべての情報を設定することができます。また、たった一つのシステム環境設定項目にすべてが集約されているのです。

インストールの手順と使い方

RCDefaultApp.prefPane をインストールするには、~/Library/PreferencePanels または /Library/PreferencePanels にコピーし、システム環境設定を開くだけです。ただし、これらのディレクトリをあらかじめ作っておく必要がある場合もあります。Panther では Finder 上で RCDefaultApp をダブルクリックするだけで、システム環境設定が「どこにインストールしたいか」を尋ねてくるはずですが。

RCDefaultApp の使い方は非常に単純です。URL・拡張子・MIME タイプ・ファイルタイプといった個々のタブがあります。インターネットという特別なペインがあり、代表的な URL タイプを設定できるようにするとともに、Apple のシステム環境設定 (例えば、“Web” ハンドラは http および https という URL プロトコルハンドラの両方を設定します) により可能な、いくらか特殊な関連付けに似通わせています。

それぞれのタブで、左側にあるリストから項目を選ぶと、現時点でその項目を扱うよう設定されているアプリケーションがポップアップボタンに表示されます。ポップアップボタンにはその項目を扱うことができるアプリケーションの一覧も並んでいます。“<デフォルト>”オプション (有効な場合) により、その項目について何の変更も加えられなかった場合に Mac OS X が選ぶであろうアプリケーションに戻すことができます。何らかの原因で特定のアプリケーションが一覧の中に無い場合は、“その他...”オプションを選択することで、お好みのアプリケーションまで導きことができるオープンパネルが開きます。このオプションを選択する時には注意して下さい。というのは、特定の項目に対し、本当はその項目を扱うことのできないアプリケーションを割り当てて

しまうと、ファイルをそのアプリケーションで開こうとした際、Mac OS X に問題が生じるかもしれません。

“<なし>”オプションを選択すると、その項目は無効となり、そのファイルを開くアプリケーションがなくなります。これは、セキュリティ上の問題をはらんだ URL タイプを無効にするのに役立ちます（起動すると終了するだけの秘密のアプリケーションを割り当てること、その項目は無効にしています）。

リストの左下にあるテキスト入力欄に名前をタイプ入力し‘+’ボタンをクリックすれば、カスタムの項目を追加することができます。また、項目を選択し‘-’ボタンをクリックすれば、カスタムの項目を削除することもできます。ただし、カスタムのプロトコルを追加することはできません。アプリケーションは（すでにリスト中にある）対応するプロトコルにしか反応できないからです。

文字をタイプ入力すると、リスト中でマッチする項目にジャンプします。複数の項目がマッチする場合は、スペースを押すと順繰りに移動できます（shift+スペースで逆行します）。MIME タイプに関しては、“/”は特別扱いとなります：例えば“v/m”とタイプすると、“video/mp4”またはこれに近い項目にジャンプします。

RCDefaultApp によるデフォルトアプリケーションの設定は Finder の“情報を見る”パネルを利用してファイルごとに上書きできます。ファイルにクリエイターコードがある場合は、そちらが RCDefaultApp による設定すべてに優先します。Finder がアプリケーションを選択する方法に関する詳細については、以下の文書の“Determining the Preferred Application”の節を参照してください：

http://developer.apple.com/documentation/Carbon/Conceptual/LaunchServicesConcepts/LSCConcepts/chapter_2_section_8.html

（RCDefaultApp は Step 1 “binding for the entire document type” と関係があります。）

ローカリゼーション

RCDefaultApp はローカリゼーションに対応しやすい構成をとっています。興味がある方は Localizable.strings および（できれば）About.rtf だけを翻訳してください。nib ファイルを編集する必要はありません。また必要なら、この README も翻訳していただいで構いません。

現在、以下の方々にローカリゼーションを提供していただいでおります。

日本語：	E-WA と Fumio Yamamoto
フランス語：	Gwendal Roué と Claude Le Mestric
ドイツ語：	Alexander Nouak
イタリア語：	TF (Monica Cainarca) と Alessio Ciregia

警告／注意

RCDefaultApp は Apple のプライベート API を利用しています。Mac OS X の将来にわたるバージョンで動作し続ける、とは保証できません。

“システムの初期設定”へ戻す機能はいささか場当たりのです。MIME タイプについては Jaguar では機能しませんし、UTI はまったく戻すことができません。

RCDefaultApp は機能しないことが分かっているオプションについては表示しないようにしています。

CD および DVD の起動項目を設定した後も、対応する Apple のシステム環境設定項目 (CD と DVD) には設定が反映されないことがあります。

フィードバック

RCDefaultApp に関するコメント、提案、バグ報告などのフィードバックにたいへん関心があります。tools@rubicode.com まで送って下さい。

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS ``AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

(ショートバージョン : もしこのソフトが壊れたり、お使いのシステムを壊したりした場合は、ばらばらになった残骸をかき集めておきましょう :-))

変更履歴

- 2.0 ユニバーサルバイナリ化、Intel Mac に対応。
“アプリケーション”タブを追加、一度に複数の拡張子に関連づけるなどの操作が可能になった。
“メディア”タブを追加、デジタルカメラや Web カメラを接続したときに起動する項目の設定が可能になった (イメージキャプチャおよび iChat の環境設定を模倣)。

拡張子“.app”と関連する項目のデフォルトアプリケーションを設定できないようにした。これが設定できてしまうと問題が発生するため。
URL スキームの説明を各国語で表示できるようにした。
詳細情報をシートで表示するようにした。“i”ボタンをクリックすると表示される。
その他、いくつかの小さなバグを修正。

- 1.3 Mac OS X 10.4 (Tiger) での動作を修正。
 - <デフォルト> が選択できる箇所を追加。
 - Mac OS X 10.4 上での UTI (Uniform Type Identifiers) のサポートを追加。ただしもっと多くのアプリケーションが対応しない限りは、それほど便利には使えません。
 - Mac OS X 10.2 および 10.3 の 2005-004 セキュリティアップデートに関する問題を修正。
 - イタリア語ローカリゼーションの大部分が機能していなかったのを修正。
 - アプリケーション情報の検索を少々改良。
- 1.2.1 Mac OS X 10.2 での動作を修正。
- 1.2 カスタムの拡張子、MIME タイプ、OS タイプを追加できるようになった。
 - 文字をタイプ入力するとリスト中でマッチする項目にジャンプするようになった。
 - イタリア語ローカリゼーションの追加。(Alessio Ciregia と Monica Cainarca による)
 - フランス語 README の追加。(Claude Le Mestric による)
 - インターネットタブに RSS (feed:// プロトコル) を追加。(Håkan Björk よりの提案)
 - アプリケーションの Info.plist ファイルが破損している際に生じるバグを修正。
- 1.1.1 日本語ローカリゼーションの追加。(E-WA と Fumio Yamamoto による)
- フランス語ローカリゼーションの追加。(Gwendal Roué による)
- ドイツ語ローカリゼーションの追加。(Alexander Nouak による)
- 1.1 URL スキームなどを停止するために <なし> オプションを加えた。(Paul Hoffman の提案)
- 1.0 最初のリリース。